

心からの言葉

“逞しい実践力のある教師”を！ 学科長 岡 利道

会員の皆さん、お元気でおすごしのことと思います。

ふとしたときに、卒業生を思い出すことがあります。卒業して出身地に帰る場合あり、そうではない場合あり。ここでは、出身地ではないところで勤め始められた、Fさんのことを書かせていただきます。

大分県南部の市が出身地であったFさん。私が初等教育学科教員になった年に、Fさんは4年生でした。明るく、はきはきとして、芯も強いFさんは、新任で様子がわからなかった私を、よく助けてくれました。卒業後は広島市内に残り、ある施設の職員として、精力的に勤めていました。

ところが、その年の梅雨時期、記録的な集中豪雨が広島を襲い、Fさんが勤めていた施設を土石流が直撃し、子どもたちを送り返して職員室に残っていたところへ……。あとは、ご推察のとおりです。

Fさんと私とは、たった一年と数箇月のご縁となりました。

志半ばで亡くなられたFさん。しばらくしてから、ご自宅に挨拶に伺い、遺影との悲しい再会となりましたが、ご両親から思い出話をたっぷり聞くことができ、「娘のためにも、これから、いい教師を育ててください」と、励まされたのはこちらの方でした。

時は流れ、2008年のことです。校務の学生募集に関する高校訪問の仕事で、大分市内のある高校で、何時ものように、対応して下さる先生を進路指導室でお待ちしていました。

出て来られた若い男性の先生から名刺をいただき、ハッとしました。Fさんと同じ姓です！おたずねすれば……。やはり、Fさんのお兄さんでした。足が震えました。高校にお勤めのことは、以前うかがっていました。ここでお会いできるとは！次の時間、ご授業があり、短時間しかお話しできませんでしたが、何と密度の濃いひとときであったことでしょう。

私としては、こみあげてくるものを必死に抑えながらでしたので、どんなことをしゃべったか定かではありませんが、「私たちは、いい教師を育てるために、これからも一所懸命頑張ります」という話だけはしたと記憶しています。

2012年の現在、その気持ちはもちろん変わりません。初教の教員全員で、養成に取り組み続けます。“逞しい実践力のある教師”を！では、皆さんの、益々のご活躍を祈ります。



初教 KAWARABAN

第14号
2012.7.29

広島文教女子大学
教育学会

発行

教員採用試験のお守り

がんばり 顔 晴り

みなさんは、“顔晴り(がんばり)”をご存知ですか？“顔晴り”とは、小学校教員採用試験に向けた取り組みの記録を掲載している手作りの冊子のことです。毎年、4年生の先輩が中心となって作成しているものです。冊子が完成する12月には、報告会も開催しています。この冊子を参考に、教採に向けて勉強に励んでいる人も少なくありません。近年では、幼児教育コースの先輩方による別冊も刊行されています。今回は、この“顔晴り”の歴史について、社会科の村上典章先生にお聞きしました。

“顔晴り”が創刊される前は、“教採合格の秘訣”が作られていました。これは平成10年の11期生の先輩から始まったそうです。しかし、この冊子には合格した学生の取り組みの記録しか掲載されていませんでした。「合格した人ももちろん努力しているけど、不合格だった人も同じだけ努力しているはずだ。」ということから、平成16年に“教採合格の秘訣奮闘の記録”が作られました。そして、平成18年の23期生の先輩が“顔晴り”を作られました。このタイトルには、合否に関わらず全力で頑張った思いや証を残すという意味が込められています。合否に関わらず、取り組み後のみんなの顔が晴々とするようにという願いが秘められているのです。

現在でも続いているこの“顔晴り”の精神を、これからも繋げていかなければいけないと感じた時間でした。



村上典章先生と歴代の“顔晴り”たち

すこやか2012

インタビュー：
編集委員3年
庄野友子・林那々子

平成24年5月19日(土)、20日(日)に広島グリーンアリーナで「子育て応援団 すこやか2012」が行われました。「子育て応援団 すこやか2012」とは、次世代を担う子どもたちを安心して育てていける、健やかな笑顔あふれる社会づくりと、妊娠・出産から育児までを支援する環境づくりを目指しているイベントです。そのイベントに幼教コース4年生10名が参加し、パネルシアターの発表をしました。今回は、発表した幼教4年生にインタビューしました！



*どうして参加しようと思ったのですか？

将来のために役立つし、去年の先輩の取り組みを見て、パネルシアターをしたことがなくて、是非とも挑戦してみたいと思いました。力をつける良い機会になるとも思ったからです。

*どうして「おはようクレヨン」という歌にしようと思ったのですか？

1つ、大きな発表をしようと思っていて、歌や手遊びだと簡単で覚えやすいので、お父さんお母さんが家ででもしてくれるかなと思って歌にしました。みんなで試行錯誤しながら決めました。

*気を付けたこと、工夫したことは何ですか？

準備では、パネルについては図工の佐伯先生から指摘があり、青い色は食べ物をおいしくなさそうに見せるのでお皿の色を薄くして、食べ物が引き立つように工夫しました。「おはようクレヨン」はたくさん色が出てくるので、ごちゃごちゃないようにバランスに気を付けました。もっと時間があったら、しかけをもっと工夫したり、パーツを糸でつなげたりとかしたかったですね。

当日は、動作を大きくして笑顔ですることに気を付けました。最初に「はじまるよ」という手遊びをしたのですが、ゆっくりしたり、繰り返したりして子どもたちも一緒にできるように配慮しました。自分たちが主役にならないように注意し、子どもたちや保護者を巻き込むように気を付けました。お父さんが子どもに「これ何だっけ？」などと聞いてくれる場面もあり、お父さんお母さんの目を見るようにしました。歌も歌ってくれていたのも、歌詞カードがあると良かったなと思いました。言葉かけも年齢に合わせてしました。

*2日間取り組んでみて、感想をお願いします。

とにかく楽しかったです！最初は緊張しましたが、していくうちに殻が破れるというか、アドリブとかもできるようになってきました。そうすると、楽しんですることができ、私たちが楽しんだ方が子どもも楽しんでいるのがわかりました。終わった後のハイタッチも子どもの方から来てくれたりして、笑顔や子どもの声が本当に嬉しかったですね。普段できない良い経験になりました。みんなも、体験した方がよいと思います！



新人の先生にインタビュー!

今年初教に仲間入りされた牧 亮太先生にインタビューしました!

最初は牧先生のプロフィールから♪

- ★出身：岡山県の玉野市
- ★生年月日：昭和56年7月24日（今年で31歳）
- ★好きな芸能人：佐々木蔵之助
- ★好きなミュージシャン：ケツメイシやミスチル
- ★好きなスポーツ：野球（小・中・高・大と続けていた）
- ★長所・短所：適当（良くも悪くもある）



とってもさわやかな牧先生!

編 文教の印象はどうか?

牧 学生と先生との距離が近いなって思います。先生の部屋に気楽に入っていけるのは文教ぐらいではないのかな。先生のサポートもすごいですよね（^^）

編 確かに文教に来て先生との距離が近くて話しやすい先生が多いなって感じました。

編 心理は難しいイメージがあるのですが、心理の魅力とかはありますか?

ますか?

牧 子どもをいろんな角度から見る事ができると思います。人のすることは必ず心があるから、なんでも心理学で言えるのではないかな。心理には答えがないと思いますよ。

編 研究とかは大変ですか?

牧 研究はしんどいけど新しい発見が多く見つかります。心理に1つの答えとか正解とかはないと思います。研究の結果はいろいろあるけどそれを知って子どもを見ると、あてはまらない子どももいて、そういう子どもを見るのが好きです。なんでだろうって考えます。みんなバラバラってところが心理のおもしろさだと僕は思います。

編 なるほど。心理は奥が深く大切なんですね♪

編 今はまっていることは何ですか?

牧 授業ですね。どうやったら心理を分かってもらえるかなって考えています。学生の反応がすごく素直で、伝わってくるからその反応を見るのが楽しいです。まあはまっているというか今

●1年生編集委員)以下(編)

インタビュー：編集委員1年 手島真美、國本秋穂、岡野桃葉

は授業のことでいっぱいいっぱいですね。(笑)

編 先生!!頑張ってください!!

編 最後に初教の学生に一言お願いします。

牧 適度に力を抜いて、やる時はやって頑張ってください!!

話し下手で詰まりながらも一生懸命質問に答えてくださった牧先生。(笑)

私たちの質問に丁寧に答えていただきありがとうございました。

牧先生は、私たち初教1年生のチューターでもあります（^^）これからもよろしくお願いします。



ゼミ紹介

幼児教育コース

植田ひとみゼミ



私達は、幼児教育コース4年植田ゼミです。植田ひとみ先生のご指導のもと、幼児の遊びや人間関係、食育など自分が気になる事について、様々な角度から研究をしています。植田ゼミといえば、手作りパーティです。一からみんなで作って食べることで、満足感を心と体で味わい、更にゼミの仲を深めることができると思い、取り入れています。

今までにも、鍋やクレープ、手巻き寿司などみんなで作って食べてきました。各自が立てた目標を達成した褒賞や、今から頑張ろうという時などに開催しています。

今の私たちの目標は、クリスマスまでに卒論を仕上げ、みんなでクリスマスパーティをすることです。この目標に向けて、みんなで励まし、高め合いながら頑張っています。



ほっとニュース

教育実習の様子

こんにちは(^o^)

今、初教29期生全員、それぞれの進路に向かって、勉強や就職活動を頑張っています!幼児教育コースの4年生も6月に最後の教育実習を終えました。そして、初等教育学科初/児童教育コースの中で、中学校1種免許状(英語)を取得している、ほとんどの4年生も、6月で実習を終えました。

今回のほっとニュースは、そんな4年生から、大学での大きな学びの1つであり、経験の場でもある中学校の教育実習について語ってもらいます!!

大河美乃莉さん(以下「大」)、櫻井結花さん(以下「櫻」)「(まずは)中学校での教育実習おつかれさま!!」

鶴川夢花さん(以下「鶴」)「ありがとう。無事終わったよ!!」

櫻「すごくいい笑顔(^^)♪初教、初!の中学校実習はどうだった?」

鶴「3週間だったから、あっという間だったよ!母校だったから、とても懐かしかった!!」

櫻「懐かしいよね~!一年前、思い出すなあ~。ほんの数十年前まで、この教室で勉強していたんだよねって思ったよ。」

大「私も!懐かしい校舎に“先輩”として“教師”として、あ~帰ってきたんだあって感動しちゃった。子どもがすごく可愛かったな♥」

鶴・櫻「確かに!」

鶴「あと、小学校の実習の時と同じ数だけ授業したから大変だったかな。」

大「授業数はどれくらいしたの?」

鶴「10時間したよ。」

大櫻「ええ~!?!」

鶴「一週間目の金曜日から授業だったけんね(>_<)次の週から、ほぼ週に4回授業をして、道徳を2時間したんだ。研究授業は、英語が1時間と道徳が1時間あって大変だったんだ。」

大「道徳も?!何で??」

鶴「担任を持つと道徳やるからね(>_<)だから、朝と帰りでホームルームの話を2週目からずっとしたよ。」

櫻「例えば?」

鶴「金環日食の話をしたり、中学校の総合体育大会の話をしたんだよ。」

櫻「私も、小学校1年生に十五夜の話をしたなあ~。お団子食べながらみるんよって(笑)」

大「私は、小学校3年生に今日発見したことを話していたなあ。朝、登校しているときに拾った栗の話とか(笑)」

櫻「子どもにとって、身近な話題って大事だよ!小学生と中学生って、やっぱり違った?」

鶴「ちょっと違っていたかな。担当したのが中学校1年生で、小学校からほぼ持ち上りの子ども達だったんだ。半年以上前の実習で見たときの姿より、成長してたなあ~。だから、結構話しやすかったよ!」

大「そっかあ~(^^)とここで、二人は実習に行く前はどんな気持ちだった?」

櫻「楽しみ半分、不安半分だったな。1年生だから、可愛いだろかな~っていう楽しみと授業を分かりやすくちゃんとできるかなあ~っていう不安が

半分。」

大「私は不安で仕方なかった。10月実習だったから、夏休みの間も模擬をしたけど……それでも不安で……。『私、授業ちゃんとできるのかなあ……』って。」

鶴「私も!小学校も中学校も実習前はバタバタしていたから、そういう面では不安だった。でも、子どもと関わることには不安はなかったよ。それに今回の中学校実習では、小学校実習で学んだことを活かせればいって思った。」

櫻「そっかあ~!実習って、“学び”がたくさんあるよね(^^)2人は実習でどんなことを学んだ?」

大「私は“子どもの思考の流れにそった授業づくり”かな。担当してくださった先生がすごく熱心に指導してくれて……最初は、何回も指導案を直したなあ。授業していくうちに、だんだん子どもの思考の流れが見えてきて、おもしろかったよ。」

鶴「私は、“魅力的な授業づくり”だなあ。中学校って、教科ごとに先生が違うから、授業ごとに子ども達の表情が変わるんよ。『この子、英語は好きだけど、数学は苦手なんだな~』って。小学校でもそれを感じたら、やっぱり子どもの興味関心を引き出せる“魅力的な授業”を教師が作っていくことが大切だなって思った。」

櫻「私は、“人間関係”かな。子ども同士の間関係づくりと教師と子どもの信頼関係づくりの大切さを実習で学んだよ。子どもたちが学校生活をする中で、些細なことでもケンカをするんよ。それを上手にくだめるのが大変だった。」

鶴「私もあったなあ……。」

櫻「やっぱり、仲裁役の教師がちゃんとお互いの言い分を聞いてあげて、受け止めることが大切だよ。」

大「そうだね。子どもの心に寄り添って、その思いに共感することや、子どもが意欲的に学習に取り組めるような魅力的な授業をすることは、とても大切なことだよ。では、最後に、これから実習に出て行く後輩にメッセージを送ろう。」

櫻「不安があっても、それ以上に得る“学び”がたくさんあると思う。その“学び”を吸収するために、素直な心で挑んだらいいんじゃないかな。頑張ってください!」

鶴「指導案や教材研究で悩むことも、たくさんあるよね。でも、小学校でも中学校でも、自分が頑張った分だけ、子どもたちは返してくれると思う。だから、自信をもって頑張ってください!」

大「実習中、担当の先生から『子どものために頑張ろう!!』とよく言われました。やっぱり、教育現場は“体力勝負”!子どものためにきちんと体調を整えて、素敵な笑顔も忘れずに充実した学びをしてきてね。」

教育実習は、不安と期待の両方の気持ちがあると思います。しかし、本当に素晴らしい経験ができる、最高の「学び」の場であり、大きく伸びる「成長」の場です。教育実習を終えた4年生は、実習の経験をこれからの“自分”に生かし、歩んでいきます。これから、実習に出るみなさんは前向きな気持ちで挑んでください。これからも、初等教育学科、みんなで“切磋琢磨”、共に成長していきましょう。

編集委員4年：大河美乃莉、櫻井結花、山本真里

編集後記

初教では久しぶりの若い男性の先生を迎えました。中々のスポーツマンで、学科全体が活発としてきた感じがします。私も、気持ちの上での若々しさを相変わらずです。おだし、「初教のお兄ちゃん」は引退します。(涙)(MK)



平成24年度 初教スタッフ (五十音順)

- 今崎 浩/植田ひとみ/上村 加奈/岡 利道
- 大山 綾子/川西 正行/黒木 晶子/佐伯 育郎
- 新宅 雅和/杉山 浩之/田頭 穂積/高橋 泰道
- 徳本 達夫/橋村 勝明/牧 亮太/村上 典章
- 森 哲之/吉田 裕午/善本 桂子

平成24年度 初教かわらばん編集スタッフ

- 川西 正行/岡 利道/上村 加奈/佐伯 育郎
- 大山 綾子/大河美乃莉/櫻井 結花/山本 真里
- 庄野 友子/瀬良ちひろ/林 那々子/末光 優香
- 藤田 成美/藤村 望美/岡野 桃葉/國本 秋穂
- 手島 真美

初教かわらばんイラスト担当

石井 実歩 (初教1年)

次の要領で原稿をお寄せ下さい。掲載分につきましては、薄謝進呈。

- 分量 800字程度
- 写真 1~2枚
- 送り先 〒731-0295 広島市安佐北区可部東1-2-1 広島文教女子大学 川西正行あて または mkawanishi@h-bunkyo.ac.jp

please! おたよりください!

Letter 卒業生 からの声より

18期生 秋山 雪絵 (旧姓：中島) (東京都)

かわらばんの雰囲気が変わりましたね!イラストってすごい!結婚3年目。専業主婦というライフスタイルが自分にすごく合っていて、毎日楽しく過ごしています。2011年の夏は節電で大変でした。おかげで電気代が下がってよかったです!節電対策であまがおで緑のカーテンを作りました。来年は収穫できるゴーヤで挑戦します!

19期生 折坂 明日香 (旧姓：小松) (鳥取県)

職員数20人弱の学校に、文教卒業生が3人動いています。文教話の会話がはずみます。

20期生 古本 香世 (広島市)

卒業後、色々歩んで結果精神保健福祉士となり、NPO法人の作業所で施設長をしております。先日は、文教の福祉学科より実習生さんもお越ししました。文教生であったことを誇りに頑張っております。

21期生 浅見 明美 (旧姓：田中) (神奈川県)

4月に初任校が異動し、新しい環境で働くのが仕事しています。初任の頃と同じ3年生担任。ただ、クラス数は半分の2クラスずつ。分掌も多く持ち大変ですが、文教卒の後輩と職場で頑張っています。娘・息子は4歳・2歳の元気盛り!!毎日子育て奮闘しています!!

22期生 久原 マヨリ (旧姓：川久保) (福岡県)

昨年結婚し、現在妊娠7カ月です。2年生の担任をしています。秋の運動会にむけ、かわいい30名の子も赤ちゃん練習に取り組んでいます。

23期生 黒川 未来 (沖縄県)

保育士5年目!5歳児担任頑張っています。毎日の戸外あそびでますます黒くなっています☆

24期生 由里 由香里 (旧姓：須山) (東京都)

今年5月に結婚しました。4月から東京都に引越しし、2歳児の担任として今も保育士として働いています。毎日大変ですが充実した日々を送っています。

25期生 塚原 沙耶香 (福山市)

保育士になり、3年目となりました。本当の意味で、この仕事の楽しさ・やりがいを感じて日々頑張っています(●^o^●)一生この仕事を続けたいと思えるようになり、毎日幸せな日々を送っています☆

26期生 弥武 奈留美 (福山市)

まだ、たくさん不安や悩みがあるものの、教職2年目を毎日楽しく過ごしています。大変なことが多いですが、充実しています。近々、文教にも行きたいと考えています。

27期生 園山 知佳 (鳥取県)

4月から、出雲市立の幼稚園で勤務しています。年少組の担任として日々奮闘中です。先日初めての運動会が終わり、改めて園行事の計画・準備・実践の大変さを感じました。悩み続ける日々ですが、いつも両手を広げて待っていてくれる愛しい子どもたちと一緒に「これか!」をつづけていきたいです。